「日本基督教台湾教団」

高井ヘラー由紀（台南神学院）

キリスト教史学会大会シンポジウム
「大東亜共栄圏とキリスト教－戦時期東アジア地域における教会合同運動」
2024年9月13日

先行研究

- 戒能信生「「『日本基督教台湾教団』成立の問題点」、日本基督教団台湾委員会編『共に悩み共に喜ぶ－日本基督教団と台湾基督長老教会の協約締結のために－』1984年、85-109頁。
- 高井ヘラー由紀「日本統治下台湾における台日プロテスタント教会の「合同」問題」『キリスト教史学』第59集，2005年7月，109-141頁。

はじめに：
日本植民地統治期の台湾キリスト教

- 台湾における近代キリスト教宣教の開始
  - カトリック＝1859年；プロテスタント＝1865年
- 日本による植民地統治の開始＝1895年
- 統治期50年間の台湾キリスト教
  - 欧米ミッション：イングランド長老教会＆カナダ長老教会→**南北台湾長老教会**（1912大会組織、しかし実質上は二つの教会組織）
  - **日本人教会**：日基、聖公会、組合、ホーリネス、救世軍、メソジスト、セブンスデー、など 約40軒
  - ペンテコステ派：真耶蘇教会；天幕伝道隊；

日本統治期台湾における日台教会の関係

- 出会い（1894～1895）
- 友好的関係の構築（1895～1910）
- 分裂・疎遠化（1910～1930）
- 「融和」の試み（1930～1941）
- 強制的併合（1944～1945）
- 参考：戦後
  - 宣教協約（1963年）
  - 宣教協約の改訂（1984年）

軍国主義を背景とした、台湾教会による日本教会との合同の画策（1930年代）

- 総督府先導の「内台融和」運動
  - 背景：自治運動の弾圧、皇民化運動（神社参拝問題、国語使用、改姓名などの強要）により，台湾人を戦争協力の方向に。
  - キリスト教界：「内台信者懇親会」（1935）、「全台湾基督教徒信徒大会」（1935）、「内台信徒の交わり」（1936-8）
- 軍国主義の台頭→台湾基督長老教会の危機感
- 日本の教会との合同あるいは連携を求める
  - 日本基督教連盟への加盟申請（1934-1940）**→遅すぎる実現**
  - （1940年：欧米宣教師は国外退去）
  - 日本基督教会との提携あるいは合同の可能性（1938-1940）**→実現せず**
  - 日本基督教団（1941年成立）への加入を希望**→実現せず**

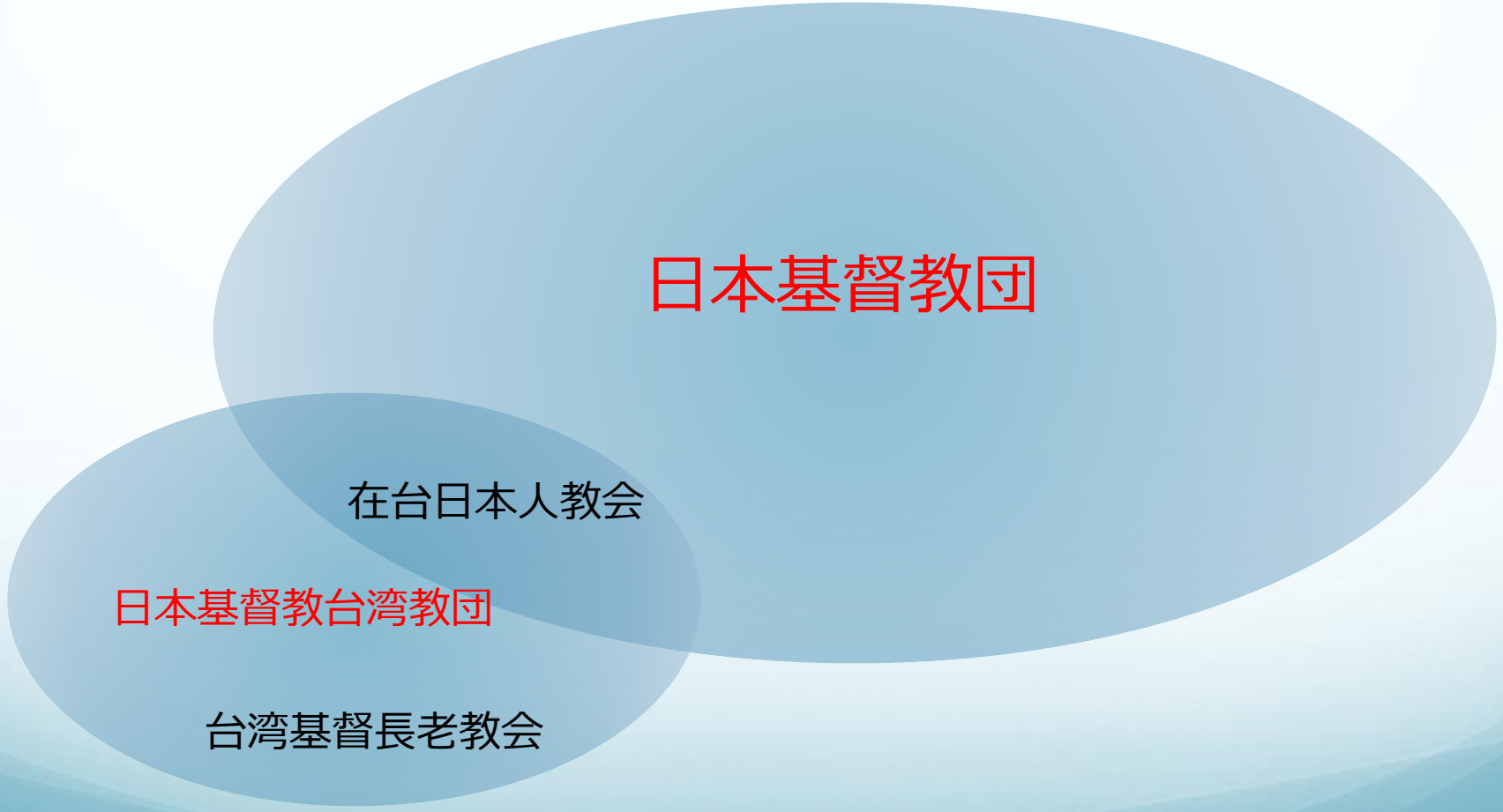
日本基督教台湾教団成立
（1944年4月29日）

- 北部教会は日本基督教団加入を希望、だが「さまざまな理由で」実現せず＝南部教会の抵抗か？
- 最後には日本基督教会との合同を通して日本基督教団に入ることを希望
- 問題の所在：台湾教会側の南北不一致？
- 1942年3月台湾長老教会の「台湾大会」：
  - 「台湾大会をもって南北合一の実質的形態と見做」し、日本基督教団加入を満場一致で決議→しかし、加入は叶わず。
- 1943年2月25日：南北合同の正式決議＝合同教会の「準備」だった？
- 1943年5月：内台湾合同準備委員会成立
- 1944年4月29日：日本基督教台湾教団成立

日本基督教台湾教団の問題点

1) 二重教会籍
2) 台湾教会側の反感
3) 台湾教会側の事情：南北の温度差

二重教会籍問題



日本基督教台湾教団はどのようなものと受け止められたのか：保護か、強奪か

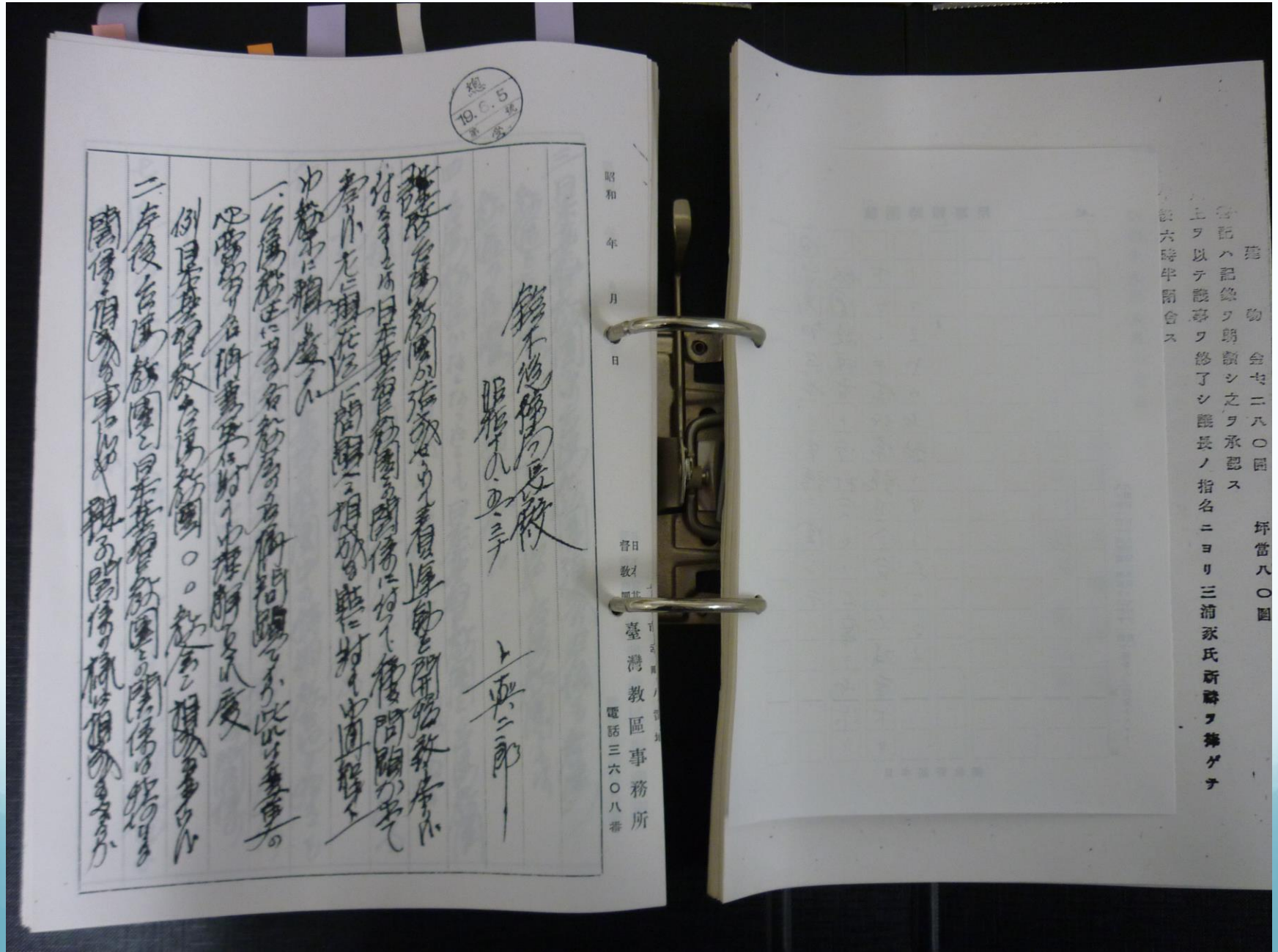
- 「台湾教会を守りなさい」との総督府文教局長からの通告
  - 元台北日本組合基督教会牧師　塚原要による戦後の証言資料
- 日本人教会牧師達がひねり出した苦肉の策としての「日本基督教台湾教団」？
  - 同上証言資料
- 或いは日本人教会牧師達は結果的に軍部の手先同様だったと考えるべきなのか？

キーパーソン：上與二郎（1884~1984）
（写真：真理大学校史館所蔵）

- 台北日本基督教会（台北幸町教会）牧師(1918年05月～1947年05月)
- 日本基督教団台湾教区長
- 日本基督教団台湾教団統理
- 引き揚げ後、幸町教会引揚者と共に千歳教会を設立。
- 戦後、二重教会籍問題について問われた際、「私が教会の二重籍などという問題を容認するはずがない」と述べる。

https://openmuseum.tw/muse/digi_object/c24583efb9e2e9283fdf82329270b473

しかし。。。


昭和 年 月 日
臺灣教區事務所
電話三六〇八番
坪當八〇圓
会七二八〇圓
議長ノ指名ニヨリ三浦永氏所辞ヲ発ゲテ
議ハ記録ヲ朗読シ之ヲ承認ス
議ヲ以テ議事ヲ終了シ議長ノ指名ニヨリ三浦永氏所辞ヲ発ゲテ
午後六時半閉会ス

台湾側キーパーソン：
陳溪圳（北部教会）＆楊士養（南部教会）

https://www.slpctaipei.org/about_5
https://taigi.fhl.net/loa/loa179.html

（参考）戦争遂行のための統合のプロセス：「教會合同」強行に至るまでの三段階

1. 神社参拝問題（1929-1936）：
   - キリスト教主義の学校
   - 日本本国から植民地、占領地などの周縁へ
2. 全体主義の成立（1937-1941）：国民精神総動員運動
   - キリスト教徒やキリスト教の組織も動員される
   - 周縁から周縁へ、本国から周縁へ
3. 教会合同（1941-1945）：
   - 教会が全体主義的統制の対象となり、またエージェントとなる

戦後

- 解散
  - 1945 年 10 月 2 日、「台湾教団」統理であった上與二郎は台湾教会の要求に応えて同教団を正式に解散。
- 台湾教会にとっての後遺症
  - 北部教会と南部教会に再び分裂。合一の「台湾基督長老教会」が成立までに6年の時間を要した。
  - 「台湾教団」名義の財産：一部国民党によって「日産」として没収される。
- 日本基督教団と台湾基督長老教会の宣教協約
  - 1963年の協約：歴史に対する反省を踏まえていない
  - 1984年の協約：歴史を対する反省を踏まえ、『共に悩み共に喜ぶ』を出版。

青鳥運動時 （2024年5月） の濟南長老教会：民主主義の守護者？

（写真：中央通訊社）

https://tw.news.yahoo.com/%E7%A9%B6%E7%AB%9F%E6%98%AF%E8%AA%B0%E7%B5%A6%E8%AA%B0%E8%A3%9C%E8%A1%80%EF%BC%9F-230058896.html